

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1291700076		
法人名	社会福祉法人		
事業所名	グループホーム ユーカリ優都びあ		
所在地	千葉県佐倉市青菅1023-6		
自己評価作成日	平成27年12月9日	評価結果市町村受理日	平成28年3月17日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo.chibakenshakyō.com/kaigosip/Tod.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人ヒューマン・ネットワーク		
所在地	千葉県船橋市丸山2-10-15		
訪問調査日	平成27年12月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・1日の活動予定をあまり決めず、利用者の希望を優先している ・施設の目の前にケアガーデンを有し、恵まれた環境にある ・学童保育を併設しており、お子さんとの交流が日常的に行える ・全室南向きの個室で、家具の持ち込みも可能 ・入浴に準天然光照明石温泉を採用し、温浴効果を高めている ・リビングは約5メートルの高さから採光を採り入れ、明るい雰囲気。また、床暖房を装備し、真冬でも暖か

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>高い天井から自然の光の入るゆったりとくつろげる広いウッドデッキ付リビング、多目的な広々としたダイバージオナルケアガーデン、全面南向きの居室と恵まれた住環境が揃っている。学童保育が併設され日常的に子どもと触れ合うことができる。センター方式「心身の情報シート」に短期目標・サービス内容と評価や気付きも記入できるよう様式を工夫している。全職員がアセスメントとモニタリングを行う事が出来、ケアプランの共有とチームケア意識向上を図っている。入居者一人ひとりとユックリ会話することを大切にし、その時々に行えることに柔軟に対応し「共に助け合う家族・可能性をたたえ合う家族」との理念の実践に取り組んでいる。</p>
--

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない 	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない 	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない 	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない 	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらい 3. 職員の1/3くらい 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない 	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない 	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらい 3. 家族等の1/3くらい 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない 		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Alt+Enter)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所に掲示したり、職員ネームプレートに差し込んでいる。職員の入れ替わりが多くあり、実践出来ていることは少ない	入居者一人ひとりの出来ることを積極的に声掛けをして頂く等、その人の持てる力を引き出し、「共に認め合い助け合う家族、可能性をたたえ合う家族」との理念を共有し日々のケアサービス提供を通して実践するよう努めている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の敬老会には参加出来たが、日常的な交流は出来ていない	地域の敬老会に普段閉じこもりがちの入居者も含めて15名参加した。ふるさと体操や傾聴等地域のボランティアが来ている。併設の学童保育とクリスマス会や卒業式、バレンタインデーや敬老会、学童の雑巾レースの応援やお迎え等と日常的な交流が盛んである。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近所の方など、施設に興味がある方には、自由に施設内外を見学し対応している		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族から具体的なお意見を頂いたが、実際のサービス向上へは活かせていない	地域包括支援センター職員や家族の参加を得て、運営、生活状況、職員状況などを議題として一度だけ開催した。体操や散歩等筋力低下防止のためにも活動をさせて欲しいとの意見をテレビ体操やボランティアによる体操を導入する等に活かしている。	運営推進会議の意義、必要性と義務付けられている事に鑑みて、年間予定を立てる等工夫をして、2ヶ月に一度開催することが強く望まれる。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	月に1度、介護相談員が来訪し、意見交換を行っている	高齢者福祉課担当職員や地域包括支援センターと必要に応じて連絡を取り合っている。介護相談員の受け入れも行っている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアを心がけている。施錠しない方針ではあるが、安全面を考え、正面玄関は時間を決めて施錠。学童、ユニットの行き来は自由だがチャイム音で動きが把握出来るようになってきている	身体拘束廃止・虐待防止研修を行っている。職員一人ひとりの理解と意識向上を図るため、自己チェックリストを記入し身体拘束をしないケアを実践している。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会議の場で虐待について学び、職員同士見過ごすことがないように注意を払っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用している入居者の方がおり、資料により職員の理解を促すようにしている		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に契約書、重要事項説明書、生活上のリスクをご家族と一つ一つ確認している		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族からの意見は利用者の身体に関する事が主で運営に反映させるまでの意見を吸い上げることが出来ていない	毎月、ユーカリ優都びあ様便りにホームでの様子、予定や薬情報と共に職員紹介コーナーで職員の紹介を掲載し、家族から管理者以外の職員にも意見や要望を言い易くしている。外出機会を増やして欲しい、フロアの写真展示を続けて欲しい等、運営に反映させるようにしている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は直接職員と話す機会があるものの、運営に関する意見を吸い上げることは出来ていない。代表者はさらに意見を聞く機会が少ない	職員会議に非常勤職員も含め全職員が参加するようにし、意見や提案を言う機会としている。また管理者は日常的に職員と意見や提案を聞く機会を多く持っている。イベント行事や園芸活動など職員からの提案を運営に生かしている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の人事考課により自己評価、他己評価を行っている。代表者へ管理者から書面及び口頭にて職員の状況について報告している		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修へは各職員を送りだせたが、社外研修への機会は作れなかった		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	機会を持つことは出来ていない		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>事前情報をもとに、日常生活の中で本人の希望を聞きとり、安心した生活が送れるように努めている</p>		
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>面会時、積極的に声をかけるようにし、事前の要望と本人の要望を擦り合わせしながらサービス提供に繋げている</p>		
17		<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>ご家族と話し納得の上でサービス提供し、新しい問題点を話し合い、見極めを行いながら、次のサービスへ繋げている</p>		
18		<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>出来ることはなるべく自分で行ってもらい、出来ない事は一緒に行い、人として対等な関係性を築けるように努めている</p>		
19		<p>本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>利用者本人の事で一緒に悩み、解決の方向へ向けることが出来るよう、家族来訪時には積極的に話掛け関係作りに努めている</p>		
20	(8)	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>希望や本人の状態に応じて、家族へいつでもTELできる環境作りなど行っている。またご家族以外の面会希望の方にも制限せず面会していただいている</p>	<p>元の住まいの近所の方が3人で訪ねて来る。退所した方を他施設に訪ねて行く。馴染みの美容院やお墓参りに家族と行く、家族とドライブや食事に行く。何時でも電話できる環境作り等馴染みの関係を継続できるよう支援に努めている。</p>	
21		<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>それぞれの性格を把握し、状況に応じて橋渡しを行っている。また、個々で築いた関係性は大事にし、日常生活に活かしながら見守っている</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設へ行かれた入居者の面会、また退所の際の写真データ作成など、関係が途切れないようにフォローしている		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話の中で聞き出し、本人の意向に沿えるよう検討しながらケアを行っている	アセスメントは入所時と認定有効期間更新の時にいき、センター方式のアセスメント様式を用い、本人の言葉や気持ちを記入している。子どもと話すとき表情がよくなる方は学童保育の入り口で子どもを迎える役割を担っている。職員は入居者と積極的に話し、本人の意向を汲めるよう努めている。	入居者の日々の言葉を今以上にひろえることを目指しているため、実現されることを期待します。
24		一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前情報をもとに家族からも聞き取り日頃のケアにつなげている		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人ケア記録を活用。個人に対する申し送りファイルを共有し現状を把握している		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	センター方式を利用しながら、1人1人の職員の意見、アイデアを反映するようにしている	短期目標期間毎に職員がモニタリングを行い、ユニット会議で職員が意見を出し合い、プランを作成している。プラン作成前には、家族に意向と心配なことを聞いている。職員の気づきや発言も増え、多くの職員の意見が反映されたプランとなっている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	PC入力では、最低限の表現しか出来ておらず、具体的な表現や、ちょっとした変化をすぐに記録出来る仕組みが乏しくなっている		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	可能な限りニーズに応えている。その時、その時、臨機応変に対応出来るよう努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの受け入れや、学童の子供達との触れ合いなどの支援をしている		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の望むかかりつけ医に受診してもらっている。訪問診療を利用している方もいる	現在、主治医が3名となっており、皮膚科などへは家族が受診同行している。入居者に変化があったときには、確認項目を書面にして医師に渡している。職員間は「入居者申し送り事項」ファイルで情報共有している。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は居ないため、日々の様子を観察、記録に残し訪問診療、外部受診に繋げている		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、見舞い、面会に行き状況を把握。家族と話し合いながら、早期退院に努めている		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居者の状態を把握し、検討した上で、ご家族との相談、話し合いをし他の施設等へスムーズに転居出来るよう努めている	入居時に重度化した場合のホームでできることとできないことを明確にお話している。掴まり立ちができなくなったり、食事が摂れなくなった場合には入居者の状況を家族に説明し話し合い、他の施設などの紹介や連携をして、スムーズに転居できるよう支援している。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルは用意されているが、定期的な実践訓練は出来ていない		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災倉庫を完備している。職員の入替わりにより災害時の対応はまだ不完全	夜間想定避難訓練を実施した。法人内の併設施設が防災井戸を管理している。夜間緊急連絡網が整備され、10分で10人の職員が駆けつけることが可能となっている。備蓄は三日分を用意している。	全職員が避難訓練に参加し習熟できるよう2か月に一度の訓練を検討されているので実施されることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	各入居者の人格を尊重し接している。利用者の居室に入室の際はノックをするように心掛けている	職員の言葉のかけ方が気になるときには注意している。トイレのドアは閉めるようにし、耳の遠い方へのトイレへのお誘いは耳元でおこなっている。入居者の繰り返しの質問に対しても、対応の上手な職員を見て学びあっている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定出来るような言葉掛けをしている。他者の前で話せないような事は、個人で話を聞いたりして意志表示出来るよう働きかけている		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日のスケジュールをあえて決めずに、本人のペースで生活出来るようにしている		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	基本は利用者本人に任せるが、整髪、髭剃りなど身だしなみの声掛けはしている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	押しつけにならないよう、能力に合わせながら家事行為と一緒にしている	入居者はテーブル拭き、盛り付け、配膳、下膳、皿洗い、食器拭きを手伝っている。2カ月に一度外食を楽しむ機会があり、行事食もある。食事を拒否する方には医療と連携し健康維持に努めている。蕎麦打ちボランティアによる打ちたての蕎麦を楽しむことができた。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量を毎日全員チェックしている。通常の食事が摂れていない方には補食を提供している		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者それぞれに合わせた口腔ケアを促し、介助をしている。おもに起床時、就寝時。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し誘導、サインを見逃さないよう努めている。ポータブルトイレを使用している方もいる	排泄パターンを把握することにより早めの誘導を心掛けている。3名が布の肌着へと改善した。尿意や便意がなくても定時誘導しており、手すりに掴まり立位がとれればトイレでの排泄を支援している。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤の調整をDrと相談しながら行っている。また日々の生活で水分不足にならないように声掛けしている		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴介助は個々に合わせ行っているが、入浴時間については利用者全員の安全が確保できる時間帯、人員配置の時にしている。午前入浴もあり	シャワーチェア、バスボード、浴槽台が設置されている。お湯はひとりずつとりかえている。ゆず湯やしょうぶ湯などの季節のお風呂も楽しむし、入居者が選んだ入浴剤を楽しむこともある。シャワー浴のみの方もいる。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安眠、入眠出来るような雰囲気作りは心掛けている。個々の状態により夜間パット交換を行っている		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	それぞれに合わせた服薬方法で服用している。処方箋ファイルがあり、職員全員がすぐ参照、確認することが出来る		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	週2回のカラオケ、グランドゴルフ、館内でのゲーム、アニマルセラピーなどを提供している		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	施設前のケアガーデンに週1回程度散歩に出かけるようにしているが、利用者が希望通り外出することが難しくなっている	ケアガーデンには出ており、ウッドデッキでの園芸クラブも週に1～2回行っている。学童のお迎えを玄関先で担っている方もいる。お花見や外食を兼ねての公園散策にも出かけた。家族と美容院や食事、お茶、ドライブに出かける方もいる。	施設前に広い整備されたダイバージョナルケアガーデンがあり非常に恵まれた環境となっている。職員の外出支援への意識を高め、職員同士が協力し合いさらに活用できるよう取り組まれることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人で現金を所持している利用者がおらず、全て事務所で管理している		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	積極的な支援を行っていない		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレの照明が人感センサーとなっているが、利用者が迷わないように張り紙をして案内をしている。リビングに写真を掲示することで家族に様子が分かるようにしている。	リビングに太陽光が直接当たる季節には席の場所を変えて過ごしている。リビングは床暖房で暖かく、高い天井にオレンジ色の光と間接照明により開放的な空間となっている。リビングの大きな窓からは併設学童の子どもの学び遊ぶ姿が見られる。花壇では夏にスイカを栽培した。採れた花を押し花にした作品や行事の写真が掲示されており、居心地のよい空間となっている。児童がグループホームの廊下で雑巾レースをしたりプレゼントを持ってきたりと児童の訪問も頻回にある。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルの位置を工夫したり、時には席を変えてみたりと、なるべく穏やかに生活してもらえるように配慮している		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたものを持ち込んでもらえるように案内しているが、積極的に持ち込んでくる利用者が少ない	洗面コーナー、カーテン、エアコン、ナースコールが完備。テレビ、ソファ、ベッド、お位牌、写真、カーペットなどを持参されている。ADLに合わせて家族とも相談し、ベッドの位置を変更したり、手すりを設置することもある。転ばないように伝い歩きできるようテーブルを配置することもある。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	張り紙などで場所を示したり、手摺の代わりにテーブルを利用したり、出来るだけ自立した生活を送れるように工夫している		